

NEMURO

# 人物図鑑

ねむろを愛する  
素敵な人たち



## 一歩一歩が四島しまを近づけています

第5回「北方領土まで歩こう会」参加者 市内弁天町

鈴木 章友さん (43)

「本土から北方領土までの距離の近さを体験しよう！」と、平成17年度から開催されている「北方領土まで歩こう会」。今年も、貝殻コースにエントリーした鈴木章友さんご一家も、9月6日の開催を心待ちにしています。

鈴木さんは、妻の摩弥子さんと勘太君、健太君の4人家族。章友さんは(社)千島歯舞諸島居住者連盟青年部に籍を置き、摩弥子さんは元国後島居住の島民二世とあって、北方領土返還運動に関わる機会も多いと言います。「5年前に北方領土まで歩こう会の参加者募集の広報を見て、これは家族で返還運動に参加できる絶好の機会と感じました。当時は下の子はまだ5歳と、何も分からずに親の後ろに付いて来たという感じですが、納沙布岬から北方領土を望んだことも無かった子どもたち

には、実際に歩いた距離と目で見る距離を実感できたようですね。」と、第1回目の参加を振り返ります。

その後、子どもたちも学校の授業で北方領土問題を学び、これまでの返還要求運動の歴史や四島の様子を知ることができたようです。毎年参加することにより、島々への距離が単に歩いた距離ではなく、日本の領土への距離として実感し、新たな関心となって、次世代の返還運動へと繋がっていきそうです。

「啓発事業の中でも、幅広い年齢層が参加できることに意味のある事業だと思います。国後(16km)、水晶(7km)、貝殻(3・7km)の3つのコースから、自分の体力に合ったコースが選択でき、無理のないウォーキングの中から返還運動を盛り上げているような気がします。」鈴木さんは、ゴールが早いか遅いかが問題ではなく、参加した多くの方々から発信される「領土返還の叫び」を、全国の方々に感じてもらいたいと言います。

千二百人が参加する第5回「北方領土まで歩こう会」参加者の一歩一歩が、北方領土の早期返還を確実に近づけています。